第１学年　図画工作科学習指導案

令和５年１２月１３日（水）第２・３校時（会場：円城小学校）　指導者　塩崎　亜璃沙

１　題材名　「ふしぎないきものだいしゅうごう～ざいりょうから　ひらめき～」

２　題材の目標

（１）身近な用具の扱いに慣れるとともに，材料の形や色を生かしながら，自分が考えた生き物を工夫して表すことができる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　（知識及び技能）

 （２） 材料の形や色などを基に，自分のイメージをもちながら，どのような生き物が何をしている様子を作りたいかを見つけ，どのように表すかを考えることができる。

（思考力，判断力，表現力等）

（３）材料を見て想像したことを作品に表す活動に楽しく取り組むことができる。

（学びに向かう力，人間性等）

３　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ・身近な用具の扱いに慣れるとともに，材料の形や色を生かしながら，自分が考えた生き物を工夫して表している。 | ・材料の形や色などを基に，自分のイメージをもちながら，どのような生き物が何をしている様子を作りたいかを見つけ，どのように表すかについて考えている。 | ・材料を見て創造したことを作品に表す活動に楽しく取り組もうとしている。 |

４　指導と評価の計画（全６時間）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 次 | 時 | ねらい・学習活動 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | 評価規準及び評価方法 |
| 知識 | 技能 | 発想や構想 | 鑑賞 |
| 事前 | １ | 〇合同授業を行う円城小・津賀小の１年生と自己紹介を行うことで，合同授業への期待感を高める。（★google meetで交流） |  |
| ２ | 【３校合同授業】〇３校合同で授業を行い，一緒に学習することで，互いのことを知り，親睦を深める。 |
| 事前 | １ | 〇３校合同行事に向けて，一緒に活動するグループで顔合わせを行う。（★google meetで交流） |  |
| ２ | 【３校合同行事】〇３校合同で，どんぐりなどの秋の自然を探したり拾ったりすることで，親睦を深める。〇拾ったどんぐりなどを見て，「今はどんぐりだけど，実は生き物に変身できるとしたら…。」と投げかけることで，どんな生き物になるのか考えたり，どんぐりなどの木の実で工作することに関心を持ったりする。 |  |  |  |  |  |  |
| 一 | １・２ | 〇集めた材料を組み合わせることで，どのような生き物になるか試したり，そこから発想した生き物の作り方を考えたりする。〇ボンドでの接着など，様々な用具の扱いを練習したり，モールやシールなどの材料を見て，どのようにアレンジするか考えたりする。 | 〇 | 〇 | 〇 |  | 〇 | 〇【思判表】材料をもとに表したいことを見つけ，どのように表すか考えている。（対話）〇【知技】用具を適切に使いながら材料を加工し，表したい生き物を工夫して作っている。（観察・対話・作品） |
| ３ | 〇３校でオンライン会議を行い，各自で作った生き物を見せ合ったり，作り方や工夫したところを説明し合ったりする。〇「生き物たちが集まるとどんなことをするだろうか」というテーマでグループごとに話し合い，製作の方向性を考える。（★「google meet」で交流）〇各グループで出た意見をまとめて３校で共有する。（★思考ツール「Xチャート」） |  |  | 〇 | 〇 | 〇 | 〇【思判表】自分の作品で工夫したことを説明することができている。（発表）〇【思判表】生き物たちが集まるとどんなことをするか，自由に発想し，考えたことを話している。（発表） |
| ４ | 〇各グループで話し合ったことを共有し，さらにアイデアを広げる。〇生き物がどんなことをするか設定や動きを考え，それに必要なものを作る。 | 〇 | 〇 | 〇 |  | 〇 | 〇【思判表】生き物がどんなことをするか,設定や動きを自由に発想している。（対話）〇【知技】用具を適切に使いながら材料を加工し，表したい生き物やそれに必要なものを工夫して作っている。（観察・対話・作品） |
| 二 | １・２　本時 | 【３校合同授業】〇３校合同でグループに分かれて，作ってきた作品を並べながら物語を考えたり，さらに付け足したいものを作ったりする。 ○友達の作品を鑑賞し，楽しむ。 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇【思判表】友達の作品から着想を得て表したいことを見つけ，どのように表すか考えている。（対話）〇【知技】用具を適切に使いながら材料を加工し，表したい生き物やそれに必要なものを工夫して作っている。（観察・対話・作品）〇【思判表】どのような意図でその生き物や小道具などを作っているか，自分の思いを表現している。（観察・対話）○【態】作品の良いところや工夫を見つけている。（観察・対話） |

５　指導上の立場

（１）題材観

本題材は，自分たちで拾ったどんぐりやまつぼっくりなどの秋の木の実などが「もし吉備中央町に生息する不思議な生き物だったら・・・」というテーマで，どんな生き物が作れそうか自由に発想し，秋の木の実を組み合わせたり，モールやシールなどの材料を組み合わせたりして，生き物を作るというものである。さらに，統合を控えている３校の児童たちで集まり，「みんなが作った生き物たちが集まったらどんなことをするのだろうか」というテーマで物語を考え，それに必要な小物などを作り自由に並べていくという活動を通して，自分の作品と友達の作品を合わせることで生まれる新たな発想を楽しむことができるというものである。

生き物を作る際は，自分で拾ったどんぐりやまつぼっくりを材料にして，「秋のものから生まれた生き物」という設定にすることで，身近な材料からものづくりをする楽しさを感じたり，材料の特徴を生かして表し方などを工夫し，創造的に作る力を伸ばしたりすることができる。

また，各自で作った作品を，３校の児童で持ち寄り，「作った生き物たちが集まったらどんなことをするだろうか」というテーマで生き物たちの物語を考える場を設定する。自分の作品だけでなく友達の作品を見ながら物語を考えることで，友達と交流しながら，新たな発想を膨らませることを楽しむことができると考える。

本題材は，２年後に統合を控えている３校（御北小・円城小・津賀小）の合同行事・合同授業と連携して行い，３校の児童たちが親睦を深めることも目的としている。小規模の３校の児童たちが一緒に授業をする中で，より多くの児童の様々なアイデアや面白さに触れることを期待している。

（２）児童観

　　　　本学級は，男子３名，女子４名（特別支援学級在籍児童１名含む）の７名である。

　　これまでの図画工作科で，はさみやのりなどの用具や，折り紙や画用紙などの材料を使って，自分がイメージしたものを作り上げていく工作の活動を行った際は，はさみで細かい部分を切ったり思った通りの形に切ったりすることに不慣れな児童が多かった。本題材では，ボンドやモールなど普段あまり使い慣れていない用具や材料も使用するため，それらを使いこなすために，試行錯誤しながら試しに作ってみる時間を取ったり，教師が手助けをしたりする必要があると考える。

　　また，これまでに，ひもの形にした粘土を何かに見立てて作りたいものを発想する活動や，紙をどのように折ると立てられるかを考え，さらにそれを何かに見立てて，自分がイメージした家や木などを作っていく活動を行ってきた。物の形を見てそこから作りたいものを想像することに関しては，自由にいろいろな発想ができる児童と，友達のアイデアを聞いて作りたいものを決定できる児童と，発想することが難しく，途中まで教師が一緒に作業をすることでやっと見通しがもてる児童がいた。

（３）指導観

○第一次

集めた材料からどんな生き物を作るか発想する際には，「形が丸いから目になりそうだな」「この部分が顔みたいだな」など，材料をよく観察して何かに見立てたり，とりあえず組み合わせてみたりつなげてみたりする作業を楽しんだりする時間をとる。その際に，くっつけたいときはボンド，のり，テープ，シールなどの用具があり，それぞれに特徴があることなどを紹介し，自分のイメージに合った用具を選べるようにする。すぐに本製作と捉えず，試しに使ってみたり練習したりできる時間をとることで，児童が安心して活動できるようにしたい。

どうすればよいかイメージが持ちにくい児童には，他の児童が作っている様子を見てイメージの手助けにしたり，教師が途中まで一緒に作業をすることで，作り方の見通しが持てるようにしたりするなどの支援を行う。

それぞれの学校で作った作品を，他校の友達とオンライン会議で見せ合う活動では，気に入っているところや工夫したところを紹介し合うことで，話し手は自分の作品を見てもらう満足感を感じられるようにし，聞き手は，いろいろなアイデアに触れて楽しむことができるようにする。話し手が話しやすくなるように話型を用意しておく。また，「みんなが作った生き物たちが集まったらどんなことをするだろうか」というテーマで，どんな物語ができそうか話し合いをする際は，グループで何か一つに絞ることは求めず，意見交換をする中で自分の作りたいもののイメージを持つことをゴールとする。

本時に向けて，３校の教師が指導内容を共通理解して各校で学習を進めていく必要がある。そのために，指導案を事前に共有しておくこと，この期間でどこまで進めるのかスケジュールを共有しておくこと，進捗状況の報告をし合うことなども必要であると考える。

○第二次

　オンライン会議で紹介し合った生き物たちの実物を見ることで，児童は改めてそれぞれの作品のよさを見つけ，新しい物語が思いつく児童もいると考えられる。その場で，どんな物語にするか話をしてから，自分が作りたいものを作る活動に移る。製作をしているときに，同じグループの友達に相談したり，手助けをしてもらったり，作ったものを見せ合ったりする交流が自然と生まれることを期待している。物語のイメージはあるが，どのように作ればよいか分からない児童や，そもそも物語が思いつかない児童には，他の児童からアイデアをもらうように促したり，教員が途中まで一緒に作ったりするといった支援をする。

　製作後の鑑賞では，自分が考えた生き物の物語について友達に説明する時間をとる。作品を見るだけでなく，作った児童の思いを友達に知ってもらい，認めてもらったり褒めてもらったりする交流の時間を大切にしたい。

（４）岡山県小学校教育研究図画工作部会研究テーマ

　　　「自分らしさを生かし　つくりだす喜びを　ひびかせあう子どもをめざして」

〇「自分らしさを生かす」手立て

本題材で作る生き物は，どんぐりやまつぼっくりなどの秋の木の実などをもとに作る架空の生き物であり，自由に発想できるため，「自分らしさを生かす」ことができると考えらえる。自由度が高いため，イメージを持ちにくい児童には「どうしたらよいか分からない」という困り感を感じる可能性も考えられる。「なんとなくくっつけてみたらこんなものに見えてきたよ」「自分でもよく分からないけど面白い生き物になったよ」といったように，イメージが浮かばない状態でもなんとなく手を動かしていくうちに，不思議な生き物が形になっていったという造形遊びのような楽しさを児童が感じられるように支援をしたい。

そのために，まずは自由に秋の木の実や人工の材料をくっつけたり組み合わせたりすることを楽しむ時間をとる。その際に，用具を適切に使えるように練習する時間をとったり，失敗してもすぐやり直しができるように材料に余裕をもたせておいたりする。偶然出来上がったものを友達と見せ合い，「そんな作り方もあるんだ」とアイデアを広げ，「ほかにも作ってみたい」という意欲につなげたい。

〇「つくり出す喜びをひびかせあう」手立て

本校は１年生７名，２年生６名であり，日頃は少人数で活動している。本題材は，２年後に統合を控えている３校合同授業の中で行うため，他校の児童からのいろいろなアイデアに出会えるよい機会である。新しいアイデアに出会い，そこから刺激を受けてものつくりをする楽しさを味わいながら活動できることを期待している。

また，自分が作った生き物だけの世界に留めず，友達が作った生き物と集まることでどんなことをするかという物語を考える活動を設定することで，自然と友達と交流しながら造形活動ができるものと考えらえる。「一緒に活動したら面白いものができた」「友達に教えてもらって難しいところも上手にできた」「自分では思いつかないようなアイデアがあってすごいと思った」など，交流することで児童の世界が広がったり，達成感を感じたりすることを期待している。そのような子どもたちの姿が，「つくり出す喜びをひびかせあう」ことにつながると考える。

（５）３校合同で進めていく上での，各校の指導の共通理解

　〇自力で進められない児童への支援

児童が安心して活動できるように，見通しをもてる段階まで，教師が作っているところを見せたり，作り方を提案したり，一緒に作ったりすることも考えらえる。児童が作りたいものをタブレット等で参考例を調べたり，イラストなどでイメージを持たせたりすることは，児童の作りたいイメージ像を固めてしまうことが考えられるため，積極的には行わない。

　〇材料の制限

用意する材料は，どんぐり，まつぼっくり，木の枝，葉，木の実などの自然のものと，モール，ストロー，シール，ぼんてん，紙粘土などの人工のものとする。折り紙，画用紙などの，一から自分の思う通りのものが作れる材料は，「材料の形や色などを基にイメージする」という趣旨から外れやすいため，積極的には使用しない。紙粘土は，秋のものを生かすための土台などとして使うことは認めるが，紙粘土のみで一から何かを作ることは本題材の趣旨に合わないことを押さえておく。その他児童から「こんな材料も使いたい」という意見が出れば，材料に加えることができるようにしたい。

　〇使用する用具

使用する用具は，はさみ，テープ，のり，ボンド，グルーガン（ホットボンド）が想定される。グルーガンに関しては，児童の実態に応じて，児童に操作させてもよいし，教師が操作してもよいとする。マジックペンで模様や顔の付け足しなどをすることも考えられる。

６　本時案（第二次第１・２時）

（１）本時の目標

児童の作品を集めて「生き物たちが集合した様子」を作り上げる活動を通して，新たに付け足すものを発想したり，作りたいものを工夫して表現したりすることができる。

（２）展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習活動 | 教師の指導・支援 | 評価規準及び評価方法 |
| １　これまでの活動を振り返り，本時のめあてを確認する。（３分）２　作った作品を紹介し合い，大きな土台に集める。（１５分）３　本時に生き物のどんな様子を作りたいか話し合う。（１０分）４　生き物やその周りの小物を作り，「いきものだいしゅうごう」を完成させる。（４０分）５　友達の作品を鑑賞する。（１２分）・グループ内で・全体で６　本時の学習の振り返りをする。（５分）７　その他　・記念写真　・片づけ | 〇これまでの活動の様子を写真などで紹介することで，本時への意欲を高め，本時のめあてを確認する。めあて　「ふしぎないきものだいしゅうごう」をかんせいさせよう。〇グループごとに前時までに作った生き物を見せ合い，工夫したことなどを紹介し合うことで， 本時の作品作りの参考にすることができるようにする。〇ワークシートを活用し，事前に発表したいことを書いてまとめておくことで，発表しやすくする。〇ワークシートを活用し，事前に発表したいことを書いてまとめておくことで，発表しやすくする。〇本時で生き物がどんなことをする様子を作りたいか発表し合うことで，児童が交流しながら作ったり，イメージを持ちにくい児童も参考にしたりすることができるようにする。〇生き物たちの土台を，緑・水色・黄色・白の模造紙の中からどの色にするか班で話し合わせ，作品のイメージに合う色を選ばせる。〇模造紙を敷いたら，生き物たちを土台に乗せていく。「どこで」「いつ」「何をしているか」が共通している生き物がいた場合は，近くに置くことを提案し，生き物たちが一緒に何かしている様子をイメージできるようにする。〇自分の作品は他の人のアドバイスなどを参考にして，自分の手で動かすことを共通理解しておく。〇必要な材料や用具が入手しやすいように，各グループに用具や材料を配付し，追加分は「材料やさん」「グルーガンやさん」など，分けて配置して各自で取ることができるようにする。〇各グループに教師が付き添い，児童の思いを聞き取ったり，作り方の助言をしたりする。〇自分の作品のそばに，自分の名前と，生き物の名前（任意）を書いたカードを置き，後で鑑賞するときに誰の作品か分かるようにする。〇グループの中で順番に，自分の作品の紹介をし合う。生き物がどんなことをしているか，自分の思いを言葉で説明することで，作品の面白さを班で共有できるようにする。話型を用意しておくことで，発表しやすくする。〇各班の担当の教員が，児童の作品の写真を撮る際に，どの角度からどのように撮ってほしいかなどを児童から聞き取ることで，作品でこだわったところを説明することができるようにする。〇自分のグループ以外の友達の作品も見ることができる時間をとる。〇以下の視点で振り返りをする。・友達の作品を見て，新しいアイデアが見つかったか。・友達と交流しながら製作できたか。・友達の作品のよいところを見つけられたか。 | 〇【思判表】友達の作品から着想を得て表したいことを見つけ，どのように表すか考えている。（対話）〇【知技】用具を適切に使いながら材料を加工し，表したい生き物の様子やそれに必要なものを工夫して作っている。（観察・対話・作品）〇【思判表】どのような意図でその生き物や小道具などを作っているか，自分の思いを表現している。（観察・対話）○【態】作品の良いところや工夫を見つけている。（観察・対話） |

◎「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と判断する児童の姿

　　児童の作品を集めて「生き物たちが集合した様子」を作り上げる活動を通して，新たに付け足すものを発想したり，作りたいものを工夫して表現したりすることができた。